



令和6年1月4日
目黒区立菅刈保育園長

新しい年の始まりです。年末年始を家庭で過ごし、経験した楽しかった出来事を保育者や友達に伝えています。経験を通して伝えること、聞いてもらうことの喜びや、人の話を聞くことの楽しさを感じている子どもたちです。

先日、園庭では子どもたちが好きな遊びをしていました。1歳児の子は落ち葉が沢山落ちていたのを拾い「それ」とビオトープめがけて投げています。でもなかなか届きません。私も隣で一緒に投げてみました。やっぱり届きません。「あれー」と声をあげるとげらげら笑っています。「それー」「あれれ」の繰り返し、そのたびに枯葉は自分の頭に掛かってしまい、それを見て可笑しくて笑います。私がちょっと休むと「やろ」と言ってずーっと繰り返していました。また、4歳児クラスの子はタイヤを積み重ねています。2段目までは重ねてあるのですが、3段目に乗せるのは難しく持ち上げられません。「手伝うね」と少しだけ反対から持ち上げてみると何とか3段目を乗せることが出来、4段目にも挑戦しました。他のタイヤで足場を作り必死になって中に入り「先生、マットを上に乗せて」と言われ「中に一人で寂しくないの」と聞くと「大丈夫」とのこと。中に入っていることを担任に伝えると「大丈夫です。今さなぎになっているようで、蝶になったら自分で出てくるんですよ」と教えてくれました。子どもの発想は素晴らしいですね。タイヤの中に入ってさなぎになってみるということは思いつきにくいことです。“子どもが始めた遊び”を大切にしていきたいと思いました。それは乳児クラスの子どもでも、自分で考えて、自分の体を使って、自分で行動して最後までやりきろうとすること。そうすることが心ゆくまでやり切る強い思いに繋がると思います。側にいる大人は子どもの思いに共感し、子どもの行動を“面白い”と感じる感性が大切だと思います。今年は大人の感性を磨くことに一生懸命になってみたいと思います。生活・遊びとさらに豊かに、子どもにとって繋がりのあるものにしていきたいと思います。

今月の予定

- 新年子ども会
- 身体計測（幼児）
- 身体計測（乳児）
- お店屋さんごっこ
- 避難訓練

懇談会の予定

- つぼみ組
- すみれ組
- ひまわり組
- りす組
- うさぎ組
- きりん組

えんていっしん 番外編

稲から米、おにぎりへ

水やり

稲刈り

脱穀

12月12日、きりん組が園庭で育てた米でおにぎりパーティを開催しました。猛暑の影響もあり、うまくいかないこともありましたが、自分たちで作ったおにぎりは格別だったようです。

食育を行う時、子どもたちからの気付きや発見、感想を聞くことを大切にしています。「どんな色かな」「野菜の皮をむいた所とむいていない所ではどう違うかな」など質問してみると「〇色」「ザラザラからツルツルに変わった」など感じたことをたくさん教えてくれます。見て聞いて嗅いで味わって触れることで「五感」を楽しみながら食事をしてもらえたらと思います。(栄養士 道)





つぼみ組

保育士がテーブルの上に皿やコップを並べて、そこにチェーンリングを盛り付けてご飯に見立てると、すぐに分かって「まんま」と言いながら子どもたちがやってきます。保育士が遊びを見せると、コップに注ぐような仕草をして飲もうとしたり、スプーンですくって食べようと真似をします。「おいしいね」と声をかけると「おいし」と言って、ほっぺたに手を当ててにっこり笑顔です。またぬいぐるみに布をかけて寝かせてあげてお世話を楽しんでいる子もいます。

経験したことのイメージを遊びの中で少しずつ持てるようになり、簡単な身振りでのやり取りが増えています。その思いや遊びの楽しさにたくさん共感していきたいと思います。

子どもたちのいま好きな遊びを紹介します。

今月は0・2・4歳児クラスです。



ひまわり組

絵本で見た『3匹のこぶた』の話が気に入り、戸外でもこぶたになりきって楽しんでいます。保育士がオオカミになり「こぶたはどこだ」とつぶやくと、嬉しそうに逃げて行き、木の陰に隠れます。「美味しそうなかぶたがたくさんいるな」と探してみると、大きな声で「ここはレンガの家だから大丈夫」と言っています。オオカミが諦め離れていくと、子どもたちが木の陰から一斉に飛び出し「こっちだよ」「捕まるもんか」と逃げていきます。追いかけられ、捕まりそうになると再び木の陰に逃げ込む、ということを繰り返しながら『3匹のこぶた』の世界の中でやり取りを楽しんでいます。

これからも物語の世界を楽しみながら色々な役になりきって遊ぶことを楽しんでいます。



うさぎ組

園庭に出ると誰からともなく「バナナ鬼しよう」と声上がるほど、うさぎ組ではバナナ鬼が盛り上がっています。バナナ鬼はルールも独特で、鬼に捕まるとバナナになってしまいます。両手を伸ばし、頭の上で合わせてバナナになりきり「助けて」と叫ぶ姿、とってもかわいらしいですが、子どもたちの目は真剣そのものです。バナナになってしまった仲間を助けようと作戦を練り、鬼の意表をついて駆け寄る姿は頼もしさと逞しさを感じます。

真剣に遊び、負けたくないからこそ「タッチした」「していない」などの言い争いも起こります。思い通りにいかない葛藤や悔しさを抱えながらも、それでもみんなで遊ぶことの楽しさ、真剣勝負の面白さを感じています。



来月は1・3・5歳児クラスです。
お楽しみに～！

